

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン】

事業名	「広告・グラフィック業界における アートディレクター育成のための教育プログラムの開発」		
学校法人名	学校法人 上田学園		
学校名	大阪総合デザイン専門学校		
代表者	理事長 上田 哲也	担当者・連絡先	鶴 鉄雄 電話 06-6371-1661

<事業の概要>

高速度且つ大容量の情報化社会への変化に伴い、グラフィックデザイナーに求められる能力の領域が変化してきている。デザイン製作に関する価値観がより高度化してきている現在においては、現在実施されている教育では養成できないディレクター能力を産業界は求めている。したがって、既存の専門教育課程を検証・再構築してディレクター能力をつけさせる3~4年間課程の高度な教育プログラム開発を行う。

<成 果>

■各種調査について

①調査A「グラフィックデザイナー教育における

アートディレクター育成カリキュラム開発プロジェクト」に関する調査

本事業の調査は、専門学校生の能力とアートディレクターの能力を比較することで、両者の情報入出力の差を明確にすることから開始する。

従い、調査は全国のグラフィックデザインに関係する専攻を持つ専門学校と広告代理店、デザイン事務所などに所属するアートディレクター、グラフィックデザイナーに対して実施した。

②調査B「グラフィックデザイナー教育における

アートディレクター育成カリキュラム開発プロジェクト」に関する調査

本事業の調査は、アートディレクター教育の実態について、アートディレクション教育の必要性の可否、必要な能力、関係する実施している教育内容などを、全国のグラフィックデザインに関係する専攻を持つ専門学校を対象に実施した。

上記の2調査については報告書 調査集計編と分析と能力マップにまとめた。

■企業ヒアリングについて

実際に業界で活動している企業の方々からのアートディレクターになるために必要なことや資質に関するヒアリング調査を実施した。各訪問先においてアートディレクターに必要な資質や能力についてお話を伺った、結果「デザインのみを追求するのは意味がない。デザイン以外の奥深い洞察が必要」「目標を100%理解して120%の力を出せる人」などのご意見をいただき、アートディレクターはデザインの理解力は必要ではあるが、それ以外の知識、技術、能力、意志、人的ネットワークが必要であることがわかった。

■開発カリキュラムについて（調査開発した成果物は下記の4つ）

1. 調査集計編について

- ・調査Aについて、全30問の設問を5つの項目に分類して実施した。
 - a. 自己概念や自己統制などについての調査
 - b. 情報のインプットに関する調査
 - c. 情報の定着－発想に関する調査
 - d. 情報のアウトプットに関する調査
 - e. 発信情報の評価に関する調査を回収して企業と学校で集計した。
- ・調査Bについて、アートディレクター教育の実態について、アートディレクション教育の必要性の可否、必要な能力、関係する実施している教育内容などを、全国のグラフィックデザインに関係する専攻を持つ専門学校を対象に実施した。結果、回答からわかったことは、学校により「アートディレクター」の定義に、分散化が見られる。これは各校が概念的に授業カリキュラムを組み立てているに過ぎず、実際に業界からの情報やニーズをカリキュラムに反映できていないとの結論を得た。またカリキュラム自体の連動性に乏しく、学生が学習してその知識・技術は習得に終止してしまう傾向が確認できた。

2. 分析と能力マップ編について

- ・分析と能力マップでは、調査集計編でまとめた結果を、学校と企業で比較し、両者の間にある差異を導き出す。そして差異がなぜ表出されたのかを分析した。差異が大きいほど能力差が大きいので学校側のカリキュラムに創意工夫が求められている。
- ・また、能力マップでは、ストーリーを記載することとした。これは実際に学生が学校生活において、学生が直面する課題をフィクション化してあらわしている。疑問文の形を多用しているが、次のカリキュラムチェックリスト編において、それらの疑問をリスト化するためである。

3. カリキュラムチェック編について

- ・カリキュラムチェックリストは、調査Aのaからeの項目について作成したそれぞれ30項目準備し使用する教員がその視点に立って、カリキュラムに工夫が施されるように配慮した。

4. カリキュラム開発編について

- ・カリキュラム開発は下記を想定して作成した。
 - ①広告・グラフィックデザインの指導領域を持つ4年制専門課程と想定。
 - ②全授業数は、1学年30コマ、1週間19コマ。年間授業570コマ。
(1コマ90分)
 - ③②のうち、週2コマ、年間60コマ、4年間240コマをアートディレクションのカリキュラム
- ・また、指導する教員の能力を鑑み、ある一定の技量をもっている教員であれば誰でも構築が可能で、学校の地域性に左右されない内容の構築を基本理念とした。

■アートディレクター育成教育プログラム説明会について

2月6日に市ヶ谷アルカディアにて開催、参加人数：32名（定員30名）

終了後に回収したアンケート（総数25）では、Q.本事業の詳細について関心を持ちましたか？の問いでは、88%（22名）が「関心を持った」と回答した。また、Q.特にどの内容に関心を持ったか。との問いでは「ストーリーの内容」「カリキュラムチェックリストの内容」

がともに 68% (17 名) となった。これは、4 年生の高等専門士課程のカリキュラムを構築する時に、ただ関連の科目を数多く羅列することでは、学生の資質向上にはつながらないと考えている教員に対し、現実あるカリキュラムの素材をどのように学生の視点に置き換えるか、どのように教員が独自の授業に取り入れて学生の授業理解度を上げていくかの指針としてとらえられた結果、関心が高かったと言える。

■将来展望

今後は、本校はもとより全国のデザイン系専門学校の教育現場において、4 年制の高度専門士課程を新設する際に、『大学にはないカリキュラムの連動性』という専門学校独自の特徴を生かしたカリキュラムを立てる一つの指針として広く活用され、学生の自己実現の手助けになることを望んでやまない。

そして、わが国の広告およびクリエイティブ業界において、本カリキュラムで育った学生が活躍し、次の世代の若者（現高等学校や中学生）にとって魅力的な職業の選択として「アートディレクター」を目指すことを願ってこの事業を終了する。